

## バイブルスタディ Pastor JD Farag

2018.12.30

## ピリピ人への手紙 2:12-16 「私たちが不平不満を言う理由」

今日の聖書箇所はピリピ 2 章 12-16 節です。

使徒パウロは聖霊によって、ピリピの教会にこう書いています。

## ピリピ 2:12-16

- 12 こういうわけですから、愛する者たち、あなたがたがいつも従順であったように、私がともにいるときだけでなく、私がない今はなおさら従順になり、恐れおののいて自分の救いを達成するよう努めなさい。
- 13 神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。
- 14 すべてのことを、不平を言わずに、疑わずに行いなさい。
- 15 それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代のただ中であって傷のない神の子どもとなり、
- 16 いのちのこばをしっかり握り、彼らの間で世の光として輝くためです。  
そうすれば、私は自分の努力したことが無駄ではなく、労苦したことも無駄でなかったことを、キリストの日に誇ることができます。

理解できるように、神様の祝福を求めて祈りましょう。

愛する天のお父様、この時間、あなたが語られることに集中できるように、私たちの心と思いを静めて下さい。

主よ、私たちは御言葉を通して、明確に私たちのいのちに語られているあなたの御声に集中したいのです。

ですから、主よ、お願いします。

イエスの御名によって。アーメン。

今日は、ある問題について語ります。

御言葉を節ごとに教えるのが大好きなのは、今朝、目の前にあるような節を語らなければならないからです。

テーマに沿って語るなら、このような不平不満に関する節を飛ばすことは容易にできます。

どうして、そんな目で見えるのですか。皆さんは、不平を言わない方たちであるのを知ってますよ。

これは私のためです。

それで、不平不満の問題について語りますのでお付き合い下さい。

今日のタイトルは「私たちが不平不満を言う理由」にしました。

クリスチャンでありながら、私たちは、なぜ不平不満を言い易いのでしょうか。

また、神様は、どうして不平不満を非常に深刻に受け取られるのかについても語りたいと思います。

神の民が不平不満を言う時、神様は心に留め、深刻に受け止められるのです。

ピリピ人への手紙を終える時には、不満を言う理由だけでなく、不平不満を止める方法についても知るようになってほしいことを願います。

これは一種のハウツーものかもしれません。

しかしそこに行く前に、誤解されている節に取り組む必要があります。

パウロは 12 節で「**恐れおののいて自分の救いを達成するよう努めなさい。**」と言っています。

ここで注目して欲しいのは、彼は「自分の救いを得るために努力する必要がある」とは言っていません。

そうであるならば、私たちは信仰による恵みによって救われたのではなく、行いによって救われたことになってしまうでしょう。

「**恐れおののいて自分の救いを達成するよう努めなさい。**」

ジムでの筋トレだと考えてみて下さい。

私たちは信仰を鍛え、救いを達成するよう努める必要があります。

ジョージ・ミューラーが一番良い言い方をしていると思いますが、こう語っています。

「クリスチャンは、原則として、既に神によって与えられていることを成し遂げ、最高の結果を出すために全力を尽くさなければならない。」

いいですか。

パウロは、「神が恵みによってあなたの内でなさっていることを、成し遂げなければならない。」と語っているのです。

主が私たちの内でなされたことを、すなわち、“信仰による恵みの救い”を、私たちはしっかりと達成しなければなりません。

しかし、私が興味深いと思ったのは、救いの達成について語った直後、パウロが不平不満の問題について話し始めていることです。

「あなた方自身の救いの達成とはこのようなものだ」と言っているようで面白い。

ところで、“あなた自身の救い”ですからね。詳細を見落とさないで下さいよ。

彼はこんな感じです。

「私たちはあまりにもすぐに、他の人の救いの達成に努めてしまう。自分のではなく、他の誰かの救いを疑ってしまうんだ。」

「あなたたちは自分自身の救いの達成に努める必要がある。他の人の救いの心配をするな。」

だから、私たちは自分の救いの達成に努めなければなりません。

それも、文句を言ったり、言い争ったりするのではなく、別の言葉で言うなら、不平不満を言うのではなく、恐れおののきながら。

15-16 節に書かれている別の事に目を向けましょう。

**15 それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代のただ中であって傷のない神の子どもとなり、**

**16 いのちのことばをしっかりと握り、彼らの間で世の光として輝くためです。**

**そうすれば、私は自分の努力したことが無駄ではなく、労苦したことも無駄でなかったことを、キリストの日に誇ることができます。**

パウロが「私たちは星のように輝く」と言っていることに注目して下さい。

なぜこれを指摘したか。

クリスチャンである私たちが、この世の人たちみたいに不平不満を言わないなら、私たちは目立つのです。

正直に言うと、今日、教会に来る途中、このことについて主と話していました。

私は自分が不平屋だとは言いませんが、でも、つぶやきます。

特に道路で。あの信号です。どの信号のことを言っているのか分かりますよね。

日中のある時間、センサーではなくタイマー式になっている信号です。

またパウラさん（警察官の信者）を見てしまいましたが、私は法に従う市民ですからね。

ただ知って欲しかっただけです。だからちゃんと止まります。文句は言いますけどね。

自分の信号は赤なので止まっている。向うは青。

問題は誰もいないということ。赤信号で、バカみたいにただ止まっている。

包み隠さず話しているだけですが、そのような時、私から聖さがなくなるのです。

足止めを食らった信号に対して文句を言っている私がいます。「誰も通らない！」

もう一度言いますが、誘惑が、敵がそこにいるのです。「おい、誰も見てないぞ。」

皆さんも、そう思った事があるはずですよ。「誰もいない！誰も見ていないぞ!!」

神様が証人なので、もし信号無視していたら、案の定、アーティーかパウラかアーバンか、警官がどこからともなく現われていたかもしれません。主が見逃さなかったでしょう。

スーパーの行列はどうでしょうか。スーパー以外でも構いませんが、自分が並んでいる列に限って、なぜか進み具合が一番遅くないですか。レジ係りはナマケモノの物まねをしていて、これ以上ないほど遅い。「冗談でしょ!？」というくらいに。皆さんが私のであるなら、恐らくそうだと思いますが、別の列に行きます。すると突然、その列のレジ係りは、ジンバブエの小切手を承認するために主任を呼ばなければならなくなる。

そのようなことが起こった時、どう反応しますか。ブツブツ言い始めませんか。あろうことか、一緒にいる人に高慢な態度を取ったり、起こっていることに嫌悪感を示したりする。逆に、あなたが、「ジンバブエの小切手を、主任に承認してもらわないといけなくなった従業員のために祈ります。」のようにふるまうなら、どれくらい目立つでしょう。そして彼らがこちらを見たら、「心配しないで。焦らなくていいですよ。それがあなたのお仕事ですから。大丈夫です。」と言う。すると周りの人は「すごい。あなたは絶対にクリスチャンですよ。」となるでしょう。パウロが言っているのはそういうことです。そうする時、私たちは、この世の中で神の子として目立つのです。そして、イエス・キリストの良き証人として私たちの光が輝いていきます。

「クリスチャンたちが絶えず、ありとあらゆる事について、人について不満を言っていたら、神を信じていない世の人たちにとって、どれほどひどい証しになるだろう」ということに思いを巡らし、主に尋ねていました。特に、「主よ、私たちが不満を言っている時と、恐れている時と、どちらが、よりあなたを悲しませますか。」その答えは、「あなたが恐れている時よりも不満を言う時、わたしはもっと悲しくなる。」そして主は、偉大な神の人々が非常に恐れていた時に、主が「恐れるな」と語られた聖書箇所を思い起こさせてくれました。

それに対して、これから語る箇所は対照的です。イスラエルの民がブツブツ不平不満を言った時、神様はどのように応答されましたか。主は彼らを殺しました。本当ですよ。2人の息子が幼かった頃、私はデボーションで、“イスラエルの民がつぶやいたので神様が殺した”話を持ち出すのが大好きでした。子供はありとあらゆることにグズグズ言ったり、不満を言ったりしますよね。だから、「聖書を開いて、神様が『不満を言うこと』に関して何とっておられるか見てみようじゃないか。」「ああ、神様は彼らを殺されたね。」ものすごい抑止力になりました。

神様はなぜ、不平不満をこれほどまでに深刻に受け止められるのでしょうか。それは、神が自分に向けられたものとして受け止められるからです。なぜ、神がそう受け止められるか分かりますか。私たちが神様に対して、陰湿な嫌味を言っているのだから。もっと言えば、悪魔的な嫌味です。「神様は不公平で、正しくないお方だ。」これは、蛇がエバに使った偽りじゃないですか。「神様は、本当にそう言われたのですか。」蛇は神に敵対して語りました。

私たちが不平を言う時は毎回、神に対して非難がましく語っていることになる。  
だから、神様は深刻に受け止められるのです。

もう一つ理由があります。

それは、その行為が最終的には神の民に影響するからです。

不平不満は伝染します。

昔、ビジネスの世界にいた時、一人の従業員が給料や労働条件、上司、ありとあらゆる事について、あだこうだと不満を言い始め、そして、このように例えることを許してほしいのですが、それが癌のように広がっていきましました。

癌のように、キリストの体に、神の民の中に広がっていく。

それを放置すると、結果として死に至ります。

だから、神様は深刻に受け止められ、早急に、且つ厳しく対処されるのです。

聖書を見ると、イスラエルの民が神様に不満を言っている話が次から次へと出て来ます。

実際、旧約聖書を講解していた時のアーカイブを調べたのですが、神様が御業をなして下さった後、イスラエルの民が不満を言っているところが個別に14回もありました。

その時に、Iコリント10章でパウロがコリントの人たちに書いた箇所を見つけたので、よく聞いて下さい。

### Iコリント10:1-10

**1 兄弟たち。あなたがたには知らずにいてほしくありません。**

私たちの先祖はみな（イスラエルの民のこと）雲の下にいて（昼間、彼らを導いた雲。夜は火の柱が導きました）、みな海を通して行きました。（神が紅海を分け、乾いた地を進んだ時のこと）

**2 そしてみな、雲の中と海の中で、モーセにつくバプテスマを受け、**

**3 みな、同じ霊的な食べ物を食べ、（神が奇跡的に与えて下さったマナ）**

**4 みな、同じ霊的な飲み物を飲みました。彼らについて来た霊的な岩から飲んだのです。**

神がそこから奇跡的に水を出されました。モーセが岩を打った時、水が奇跡的に流れ出したのです。

**その岩とはキリストです。（私たちの救いの岩、キリストのひな型）**

興味深いことに、神様がモーセに「岩に語りなさい」と言われた2度目の時、彼はひな型である岩を打ったので、約束の地に入ることができませんでした。

なぜなら、その岩はキリストだったから。

キリストが打たれる、つまり十字架にかかるのは1度だけだから。

打たれた後は、生ける水が流れ出るので、ただ岩に語ればいいのです。

だけどモーセは怒って…

ところで、モーセがイスラエルの民に我慢ができなくなったのは1回だけですよ。

これを頭に入れておいて下さい。

この世代のイスラエルの民は、エジプトでの災い、紅海が奇跡的に分かれること、天からのマナの奇跡的供給、岩からの水の供給といった様々な奇跡的なことを目の当たりにしました。

そして彼らはこの場所に来て、また喉が渇き、「喉か渇いた！」

「神はなぜここに連れて来たんだ!? エジプトには墓が足りなくて、我々を殺すためにここに連れて来たのか!?!」

ワーワーワー!!

神とモーセが会話をしているのですが、面白いですよ。

モーセが、「あなたの民が何と言っているか聞きましたか。」

すると神様は、「彼らはわたしの民じゃないよ。モーセ、あなたの民だろ。」

誰も彼らを欲しがらない。

そこで神様は、「いいか、今回は岩に語るんだ。そうしたら水が出て来る。」

しかし、モーセがした事は…

彼はイスラエルの民が、神様が御業をなして下さった後も絶え間なく不平不満を言うのでウンザリしていました。だからこう言っています。

ここもまた細かく描写されていて、とても面白い。

「私たちは、いつまであなたたちに我慢していなければならないんだ！」

その怒りの中で、モーセは岩を打ってしまいました。

その時、神が、「モー、ここに来なさい。話がある。この私たちとは何か？ 私ではなく。」

「あなたは神のようになって、わたしと同じ立場に立とうとするつもりか。」

「私たちは、あなたたちに我慢していると!？」

そして、モーセは約束の地に入る機会を失ってしまったのです。

イスラエルの民が約束の地に入れなかった理由が分かりますか。

神はモーセに、「12人の斥候を約束の地に送り、くまなく調べさせよ。」と命じました。

モーセは「ここは約束の地だ。主は、私たちがここを所有するために導いておられる。」と12人を送り出します。

その後、彼らが戻って来ましたが、その内の10人が、この地の住人が巨人であること、その町々が非常に大きいこと、彼らに比べると自分たちは小さくて、バッタのようだ、虫けらのようだ、と不満を言い始めました。

民数記14章だったと思いますが、彼らが神とモーセに不満を言ったと書かれています。

非常に興味深いことは、斥候たちが40日間、そこでスパイ活動をしたことです。

40は裁きを表す数字です。

神様がその世代のイスラエルの民を裁いたのは、彼らが不平不満をイスラエル陣営全体に蔓延させたからで、それゆえに、全員が荒野で死にました。

これはまさしく、パウロがコリントの人たちに語っている通りです。

よく聞いて下さい。

**しかし、彼らの大部分は神のみどころにかなわず、荒野で滅ぼされました。(Iコリント10:5)**

神は、あの土地を偵察した1日を1年として、彼らの上に裁きを宣告されました。

斥候たちは悪い報告、偽りの報告を持ち帰って、神に対してブツブツ不満を言い始め、それがイスラエルの民に蔓延したのです。

神は「1日につき1年、計40年、わたしはあなたたちにこの荒野をさまよわせる。それで、全員がこの荒野で死ぬ。」

神様は最初から40年にすると決めていたわけではありません。

私の記憶が正しければ、あるコメンテーターが、エジプトから約束の地までは約11日で行けたと推測していました。

11日ですよ！

なのに、40年かかった。

不平不満を言っていた世代は、誰一人として子供のことを気にかけず、「神よ、子供たちはどうなるのですか。」とは言いませんでした。

「おまえたちは約束の地に入れない。だが子供たちは入る。おまえたちは荒野で死んで朽ち果ててしまうのだ。それでイイだろ！」と、こんな言い方はされなかったはずですが。

「あなたたちがブツブツ不満を言ったからだ。」

2人。あの12人の斥候たちの中の2人。

考えてみて下さい。計算して下さい。

あの世代のイスラエルの民の内、2人だけ。

それと、40年の間に成長した子供たち。  
 というのも、これは出エジプトの初めで起こっていますから。  
 あの世代のヨシュアとカレブの2人だけが入れました。  
 彼らは真実の、良い報告を持って帰って来たから。  
 更に彼らは、神に対して不満を言った人たちに対峙したから。  
 だから神様は言われました。「あの2人だけが約束の地に入ることができる。」  
 全ては不平不満のゆえです。

### I コリント 10:6-10

- 6 これらのことは、私たちが戒める実例として起こったのです。  
 彼らが貪ったように、私たちが悪を貪ることのないようにするためです。
- 7 あなたがたは、彼らのうちのある人たちのように、偶像礼拝者になってはいけません。  
 聖書には「民は、座っては食べたり飲んだりし、立っては戯れた」と書いてあります。
- 8 また私たちは、彼らのうちのある人たちがしたように、淫らなことを行うことのないようにしましょう。  
 彼らはそれをして、一日に二万三千人が倒れて死にました。
- 9 また私たちは、彼らのうちのある人たちがしたように、(よく注意して聞いて下さい) キリストを試みることのないようにしましょう。彼らは滅んでいきました。
- 10 また、彼らのうちのある人たちがしたように、不平を言ってはいけません。  
 彼らは滅ぼす者によって滅ぼされました。

何のことを言っているのか分かりますか。

イエスご自身も、かつて、イスラエルの民が不平を言い、それゆえに、神が彼らを噛み殺す蛇を送られた時のことをヨハネ書で語っています。

ところで今、I コリント 10 章で読んだ通り、不平不満が情欲、姦淫、性的不品行と同じリストに含まれているのは興味深いことです。

「冗談でしょ!? 不平不満は、そんなにひどい罪なんですか!?!」

全くもって、そうです!!

イエスが、イスラエルの民が不平を言ったことと、蛇が彼らを殺したことを、聖書の中の最も有名な節の文脈で言及されたのを知っていましたか。

皆さん全員がよく知っているはずですよ。ヨハネ 3:16 ですよ。

ヨハネ 3:13 はどうですか。そこから読みましょう。

### ヨハネ 3:13-16

- 13 「だれも天に上った者はいません。しかし、天から下って来た者、人の子は別です。
- 14 モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければなりません。
- 15 それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」
- 16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。  
 それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

是非、民数記を一緒に開いて下さい。

恐らく、聖書の中で最も酷評される書。

民数記よりも退屈な書があるのでしょうか。

でも木曜の夜、旧約聖書を学んでいた方たち、民数記は聖書の中で最も興味深い学びではありませんでしたか。  
 興味深い書ですよ!

## 民数記 21:4-9

4 彼ら（イスラエルの民）はホル山から、エドムの地を迂回しようとして、葦の海（Red Sea）の道に旅立った。

しかし民は、途中で我慢ができなくなり、

5 神とモーセに逆らって言った。

「なぜ、あなたがたはわれわれをエジプトから連れ上って、この荒野で死なせようとするのか。」

彼らは幾度となく不満を言っています。

イスラエルの民はエジプトに戻りたかった。

どうやら、良いことだけ覚えていたようで、「ああ、あの食べ物…」

あなたたちは奴隷だったんだ!!

「そうだ。だけど、あそこにはネギや玉ねぎがあったんだ。でも今は、とても美味しい奇跡のマナを供給して下さる神により頼まなければならない。エジプトには玉ねぎがあったのに…」

エジプトに戻りたかった。

5 神とモーセに逆らって言った。

「なぜ、あなたがたはわれわれをエジプトから連れ上って、この荒野で死なせようとするのか。」

パンもなく、水もない。われわれはこのみじめな食べ物に飽き飽きしている。」

「本気で言ったのではないでしょう。」

いや、言いました。

惨めなパン。何のことだか分かりますよね。

マナが惨めだと？

マナはイエス・キリストのひな型でもあります。惨め？

主は彼らの不満にどう反応されたか。

6 そこで主は民の中に燃える蛇を送られた。蛇は民にかみついたので、イスラエルのうちの多くの者が死んだ。

7 民はモーセのところに来て言った。「私たちは主とあなたを非難したりして、罪を犯しました。

どうか、蛇を私たちから取り去ってくださるよう主に祈ってください。」

興味深いことに、主は蛇を取り去ることをしないで、一つの方法を与えて下さいました。

モーセは民のために祈った。

8 すると主はモーセに言われた。

「あなたは燃える蛇を作り、それを旗ざおの上に付けよ。かまれた者はみな、それを仰ぎ見れば生きる。」

9 モーセは一つの青銅の蛇を作り、それを旗ざおの上に付けた。

蛇が人をかんでも、その人が青銅の蛇を仰ぎ見ると生きた。

モーセは青銅を取って、それから蛇を作り、それを旗竿の上に付けました。

彼らはただ、旗竿の上の青銅の蛇を見上げればいいだけです。

そうするなら癒され、蛇から救われる。

「話がうますぎますよ。単純すぎる。」

いいえ、それが救われる方法なのです。

なぜなら、この旗竿は十字架の形をしていたから。

旗竿は十字架を示していて、青銅は裁きの金属、そして、蛇は罪の象徴。

イエスは私たちのために罪となられ、私たちの代わりに神の裁きをご自身に受けられ、モーセが蛇を旗竿の上に上げたように上げられたのです。

イエス・キリスト、人の子は十字架にはりつけにされ、上げられました。

それで、主を信じ、主を仰ぎ見る人は誰でも罪の蛇から救われるのです。

これらは全て、イスラエルの民の不平不満の結果です。

ところで、現代医療のシンボルを知っていますか。

これは改変されていますが、出所は聖書です。

蛇、治療、薬、旗竿の上の蛇。

あの旗竿はまっすぐではありませんでした。

十字でなければ、蛇はどのようにして旗竿に絡みつくなることができたでしょう。

ローマ人が制定した十字架刑が入って来る前に、旧約聖書全体に十字架のひな型があって、十字架を示していた。これはその事例の一つです。



では、「なぜ不満を言うのか」、それ以上に重要な「不満を言うのをどうやって止めるのか」について。

皆さんは、いや、私たちと言った方が良いかもしれませんが、私たちは自分がどのような者か知っていますよね。不平不満に浸っている人。不満を言いがちな人。私自身のことも含めますが。

「私たちが不満を言う理由と、それを止める方法」について、単純化し過ぎていないといいのですが、主はこのように示されました。

この領域に於いて私自身のことを言えば、私が自分の人生の王座に座っている時、私は不満を言っています。これは全てセットで来ます。

「全ては私を中心に回っている」「何よりも私が重要だ。」

うぬぼれがある。

「私には権利がある！ だがあなたには、私に向かってそんな言い方をする権利はない！」

「私をそんな風に扱うなんて許さない！ 私が誰だか知らないのか!?!」

おお、あなたは今、「わたしはある」という方になっている！（I am who I am）

私が何を言わんとしているか、分かりますよね。

「私には受けるにふさわしい価値がある。」という考え方。

そうです。あなたにはあります。

「私をそのように扱うべきではない！」「私はこれを、あれを受けるにふさわしいんだ！」

だから、私は不満を言うのです。

私の権利が侵害されたから。

私がああ信号で足止めを食らい、イエスの御名によって不満を言う時、「自分は他の誰よりも重要な者だ」という態度を取っているのです。

あの信号の所には誰もいませんでしたが、仮に誰かいたとしても理由は同じです。

誰かが私の前に割り込んだ時に文句を言うのは、「私の時間の方が、あなたやあなたの時間よりも重要だ。あなたの行先よりも、私の方が重要なんだ。」と言っていることなのです。

私が王座にいるのです。

それが不満を言う理由です。

そして、それが不満を止める方法です。

つまり、私が自分の王座から降りて、王座に座るべきお方、イエスに明け渡す必要があるのです。

そうすると何が起こるか、心に留めて下さい。

あなたが自分自身に死んで、自分の十字架を負い、イエスに従う時、何が起こるか。

ヨブのように「神が私を殺しても、私は神に信頼する。」とすることができるのです。

クリスマスに私の妹がカリフォルニアから来て、一緒に食事をしながら話していました。

その時に私が言ったことを、彼女に言われるまで気がつきませんでした。

私は「神様は私に何の借りもない。」と言ったのです。

「神様は私に何の借りもない。」



「神が、イエスが、私のためにして下さった事以外のことをして下さらなくても…」というような事を聞いたことがあると思います。

分かり易く言いましょ。

神様は、あの旗竿で私のために死ぬため、ご自分のひとり子を遣わされたほどに私を愛して下さった。

それは、私が永遠のいのちを得て、永遠に生きるため。

なのに私は、何について不満を言っていたのか。「信号…！」

自分に向かって叫んでいるんですよ。自分自身に言っているのです。

私のために祈って下さい。

私には祈りが必要ですから。

ところで、使徒パウロのことを考えてみましょう。

体験した全ての試練について、彼ほど不平不満を言う権利のある人はいません。

「また破船なんて。冗談じゃない。」「また殴られた。どういことだ。」

しかし彼は一度も、神様を悪く言ったり、不満を言ったりしませんでした。

また、私はエステルと彼女の民族の窮状を思います。

エステルは言いました。「私は死ななければならぬなら、死にます。」

「構いません。それが道であるならそれをします。神様は私に何の借りもないのです。」

「神様は既に、全てをして下さいました。」

最後に、私が不平不満の罪に打ち勝つことができた、また今でも打ち勝つことができている方法をお話しします。

「私が人にされたことではなく、イエスが私のためにして下さったことを忘れない」ということ。

そうすることで、不満を言っている全ての状況が変わります。

「誰かに不当に扱われた！」 分かりました。

でも、イエスはあなたのために死んで下さったのです。

私たちの問題は、「でも」という言葉を間違った場所で使っていることです。

「主が私の必要を満たして下さることは分かっている。

でも（さあ、不満が出ますよ）請求書が山のようにあるんだ。」

「でも」が間違った場所にあるのです。

では、逆にしてみましょう。

「請求書が山のようにあって、どうやって払えばいいか分からない。

でも、主はいつも必要を満たして下さる。」

自分から目を逸らしてイエスに目を向けるなら、全てが変わるという典型例です。

このような金言を聞いたことがあると思います。これで本当に終わりです。

「自分に目を向けるなら落ち込む」

だから、“自分自身を見つめる”なんてしてはいけません。

非常に気が滅入りますから。

自分に目を向けるなら落ち込む。

他者に目を向けるならストレスが溜まる。

イエスに目を向けるなら祝福される。祝福されるのです。

先日、「何ということだ！ 私は何と祝福されているんだろう！」と考えていて感謝しました。

“感謝 (Thank)” は“考える (Think)” の派生語です。

「そうですね。でも、あれはどうなんですか。」

ダメですよ。「でも」が間違った場所にある。

「こんな問題もあるし、葛藤もある。試練も。

しかし、私は本当に祝福されている！ とっても愛されている！」

イエスは私の罪のために死んで下さり、私の全ての罪の代価を全部支払って下さいました。

だから私は、十字架で私の罪を負い、裁きを受けて下さった方、上げられた方を見上げます。

今、私には永遠のいのちという恵みによる贈り物があるのです。

パウロが言っているように、人生の苦しみ、困難、葛藤、痛み…人生は本当に辛い。

けれども、待ち望んでいる永遠の世界の最初の 10 億年（天国の時間を計ることはできませんが）の栄光は比べることさえできないものです。

最初の 10 億年は、この世の人生 70 年、80 年の痛み、苦しみに報いるものとなるでしょう。

しかもそれは、永遠の初めですらなく、永久に続くのです。

祈りましょう。

天のお父様、今日、あなたが与えて下さった御言葉に感謝します。

まさに、私たちに必要なものでした。

主よ、今日ここにいる私たちが、「絶えず不満を言う者」として数えられることが決してありませんように。

主よ、不平不満の罪をお赦し下さい。

イエスの御名によって。

アーメン



「きょう、もし御声を聞かならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by JD Farag 牧師

カルバリーチャペルカネオヘへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 Rumi